

は し が き

このワーキングペーパーは、法政大学大原社会問題研究所編『日本労働運動資料集成』全14巻（以下『資料集成』、旬報社）の編纂の記録として刊行するものである。

2003年6月11日、『資料集成』の編纂・刊行のため、編集委員会メンバーによる戦後労働運動研究会（責任者：早川征一郎）が発足した。そして、2007年6月5日に第5回（最終回）配本を行ったあと、6月20日、同研究会は、足かけ4年にわたる編纂のための研究会活動を終えて解散した。

同研究会メンバーは、編集委員である早川征一郎・五十嵐仁・鈴木玲の大原社研専任研究員、相田利雄所長、吉田健二兼任研究員、芹沢寿良客員研究員、川崎忠文嘱託研究員のほか、2005年7月27日の第27回研究会まで中村広伸兼任研究員が研究会メンバーであった。2005年11月2日の第33回研究会から永田瞬兼任研究員が加わり、別巻の一部を担当したため、別巻の編集委員として名を列ねた。そのほか、研究会には時により旬報社側から小林祐会長、木内洋育社長、真田聰一郎氏、および元旬報社社員で、現在は大原社研の嘱託研究員でもある佐方信一氏が出席し、議論に加わった。

戦後労働運動研究会は、その発足とともに、研究会ニュースを発行してきた。同ニュースは、2003年9月3日付の第1号から始まり、2007年4月10日付の第59号に及んでいる。研究会ニュースは、『資料集成』編纂にあたり、研究会における議論をつうじて、何を問題とし、どのように研究会の合意を形成してきたかを率直に記したものであり、『資料集成』編纂の足跡を検討する最も有力な資料である。

そこで、『資料集成』編纂の過程を客観的に検証する作業が可能になるようにするため、今回、この研究会ニュースをワーキングペーパーに収録することとした。ただ、なにぶんにも研究会ニュースは、内部資料であり、当初から公表を前提とはしていないため、議論の内容や意味が当事者以外には分かりづらいのは否めない。

そこで、研究会ニュースのいわば解題を兼ねて、『資料集成』編纂・刊行のそもそもの契機から始まり、第5回（最終回）配本に至るまで、何が問題であり、それらの問題をどう解決してきたかを当事者の一人として跡づけた早川征一郎『日本労働運動資料集成』の編纂を終えて」と題する報告をこのワーキングペーパーに収録することとした。

研究会ニュースの記録係として、ほぼ毎回到近く、記録を担当したのは、佐方信一氏であった。研究会は毎回、まず前回のニュース原稿について、内容を確認したあと、本題に入った。研究会ニュースで一点、断っておけば、編集委員メンバーについては全て〇〇先生の呼称が付けられている。記録を担当した元旬報社社員である佐方氏が、敢えて区別したものであるが、収録にあたっては、それは訂正せず、そのままとした。

このワーキングペーパーが、『資料集成』編纂の過程を客観的に検証するための有力な資料として、いつの日か役立つことがあれば幸いである。

2008年2月

『日本労働運動資料集成』
編集責任者 早川 征一郎

目 次

『日本労働運動資料集成』の編纂を終えて	1
---------------------------	---

早川 征一郎

はじめに

- 1 『日本労働運動資料集成』編集の経緯と意図
 - 2 編集委員会の立ち上げ
 - 3 先行三大資料集と聞き取り
 - 4 『資料集成』の質と量＝どれくらいの『資料集成』を編集するか
 - 5 テーマ別編集か，時期区分別編集か
 - 6 出典・所蔵状況の明記を確認－この『資料集成』の大きな特色
 - 7 ウェブサイトにおける資料発表に対応する出典明記の問題
 - 8 解説について
 - 9 各巻・各年の見出し項目および資料選択作業へ
 - 10 『資料集成』編集の基本原則と特徴
 - 11 資料選択における「中央主義」と地方の関係について
 - 12 別巻について
- むすび－『日本労働運動資料集成』編纂・刊行の意義

戦後労働運動研究会ニュース 第1号～第59号	16
------------------------------	----